

## ■部 自立活動学習指導案

授業者：●●●●

### 1 取り上げる人権課題「インターネットによる人権侵害」

### 2 取り上げた人権課題の背景と現状

近年の子どもたちは、デジタルネイティブと呼ばれ、インターネット利用率は小学生で95%近くに上っている。児童がスマートフォン等を利用して、ネットゲームやSNSに触れる姿は当たり前ようになってきた。インターネットの世界は、個人同士のやりとりが多い上に、相手の顔が見えず個人が特定されにくいいため、相手を傷つけるような行動をしてしまうことがある。インターネットによる人権侵害は、どの児童にとっても身近に起こり得るものである。そのようなことを防ぎ、インターネットを楽しむ中で知らず知らずのうちに他人を傷つけたり、被害に巻き込まれたりしないために、インターネットに関する正しい知識や、他者を思いやった行動を獲得していくことができるようにしていきたい。

### 3 児童の実態

本学級では、自分の気持ちをコントロールしたり、落ち着かせたりするために、動画を観たりゲームをしたりすることがある。児童は、約束を守って利用しようという気持ちはあるが、自分の楽しいという気持ちを優先してしまい、後先を考えずに行動することがある。インターネットを利用するときの約束や、なぜその約束を守らなければならないのかということのを正しく認識し、インターネットの世界においても、相手の気持ちを考えた行動ができるようにしたい。

児童名	実態
A 児	インターネットを利用するときには、約束を守って使おうという意識がある。仲間にも約束を守ることを呼びかけることができる。しかし、インターネットの利用方法については知らないことが多く、具体的な支援が必要である。
B 児	インターネットを利用することが好きで、家庭でインターネットを使ってゲームをしている。利用の時間に関して、約束を守ることができないときもある。自分の楽しみを優先させてしまうため、インターネットの利用に関しては支援が必要である。
C 児	インターネット動画を観ることが好きであり、時間を忘れて観入っていることがある。約束を守ることができるが、インターネットに関する知識には乏しく、悪気なく誤った使い方をしてしまうこともあるため、支援が必要である。
D 児	インターネットに関する知識が豊富であり、動画等にもよく触れている。善悪の判断ができるが、知識が増えてきた際に、相手の気持ちよりも自分の楽しみを優先させてしまうことも考えられるため、支援が必要である。

### 4 指導改善の手立て

- ・個人情報をも本人の許可なくインターネット上に流出させてしまった際に、どのような結果になるのかを実際に体験できるソフトを体験し、相手を思いやった使い方が大切であることに気付くことができるようにし、行動力につなげる。
- ・インターネットを楽しむあまりに、つい他人の個人情報を書き込んでしまう自分の弱さから、相手の気持ちを考えたインターネットのマナーについての実践策をもつことができるようにする。

### 5 事前・本時・事後の指導構想

